

マレック病凍結生ワクチン類の調製のポイント

マレック病凍結生ワクチン類は獣医師の指示・処方箋に従って正しくお使いください。

	卵内接種の場合 (0.05mL/ 個)	皮下接種の場合 (0.2mL/羽)
マレック溶解溶液-IZO (以下、溶解用液)の容量	200mL→ワクチン 4,000個分	1,000羽分
	400mL→ワクチン 8,000個分	2,000羽分
	800mL→ワクチン16,000個分	4,000羽分

★溶解用液に異常が無いことを確認してください。

※バッグからの液漏れ、液内異物、変色、濁りが認められた場合は使用しないでください。

★あらかじめ溶解用液を室内の温度と同等にしてください。

★液体窒素の取り扱い時には皮膚の露出を避け、マスク、防護メガネ、手袋などを着用してください。



①溶解用液のワクチン注入部をアルコール綿で消毒します。

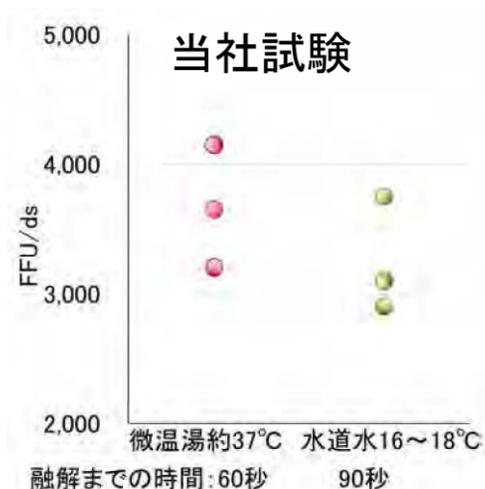


②液体窒素からアンプルを取り出します。



③直ちにアンプルを、静かに微温湯(約36℃)に浸し、素早く融解します。

※ワクチン融解の際にワクチン細胞に損傷を与えないよう、以下のことに注意して下さい。



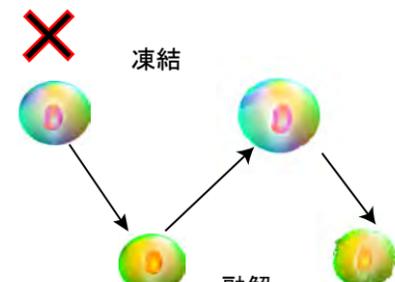
×時間をかけて融かさないでください。

FFU/ds: MD ウイルス量 / ドーズ (Focus forming unit/dose)

×アンプルを激しく振らさないでください。



×融解後は、時間と共に細胞破壊が進みますので、直ちに調製してください。

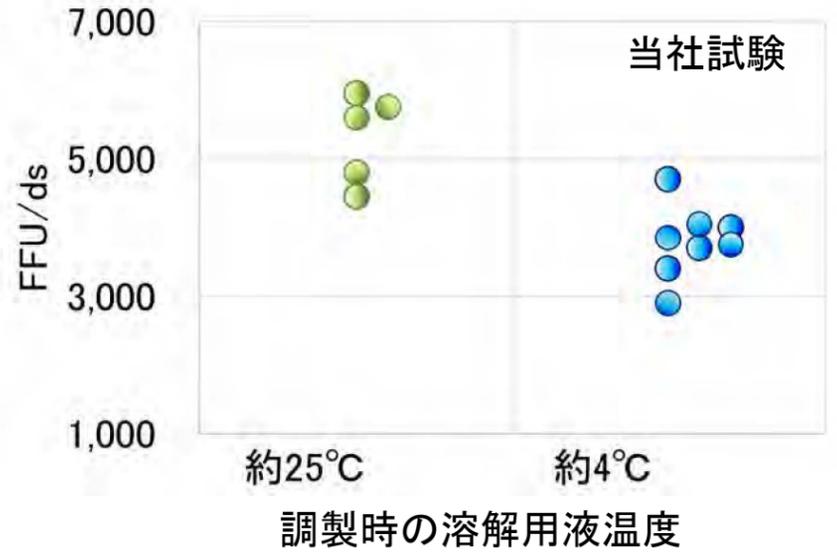


×ワクチンは再凍結しないでください。

(次ページへ)

マレック病凍結生ワクチン類の調製のポイント（続き）

④ワクチン融解後、直ちに且つ静かにアンプルからワクチンを吸い取り、溶解用液中にゆっくり注入します。



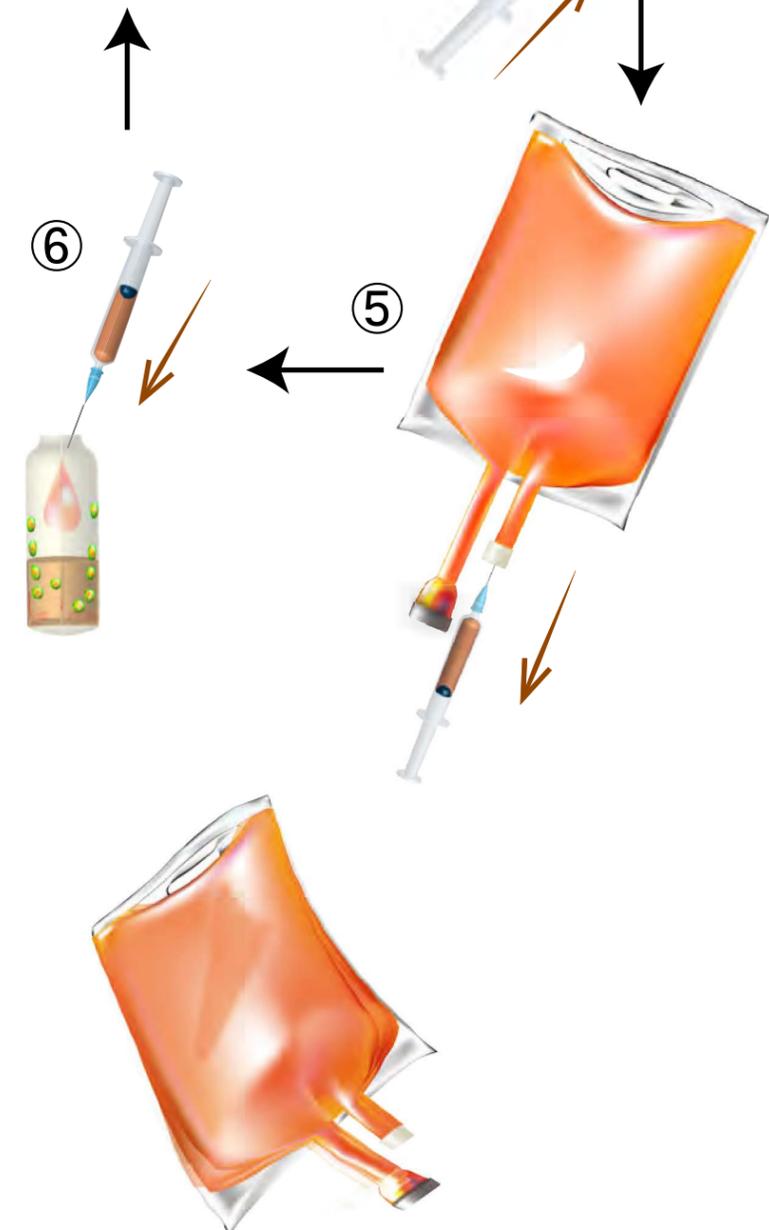
「マレック病生ワクチン」を用いた試験
FFU/ds:1 ドーズあたりのMD ウイルス量
(Focus forming unit/dose)

注射器から強くワクチン液を押し出すと、細胞が注射針の壁に衝突したり、細胞同士がぶつかるなどにより、ワクチン細胞に損傷を与える可能性があります。

⑤再度注射器で溶解用液を吸い取り、アンプル内に注入し、アンプル内をすすぎます。

⑥すすぎ液を溶解用液に注入します。

アンプル壁にはワクチン細胞が付着しています。すすぎの工程(⑥)を怠ると、これらの細胞が無駄になります。当社試験ではウイルス量が5%減少することが確認されました。



⑦ワクチンを均一にするため、泡立てないように、バッグを優しく揉んでください。

★接種作業中も、バッグ内のワクチンを均一にするために時々静かに揉んでください。

★ワクチン調製後はなるべく早く使い切ってください。



「マレック病生ワクチン」を用いた試験
FFU/ds:1 ドーズあたりのMD ウイルス量
(Focus forming unit/dose)

ご質問、ご相談などございましたら弊社までお問い合わせください。